

○中間評価の結果について

・「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。」(0校)

・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」(3校)

<学校名>

埼玉県立浦和第一女子高等学校

千葉県立佐倉高等学校

高槻高等学校・中学校

・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。」(5校)

<学校名>

宮城県気仙沼高等学校

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校

創価高等学校

熊本県立水俣高等学校

沖縄県立那覇国際高等学校

・「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。」(2校)

<学校名>

栃木県立佐野高等学校

和歌山県立日高高等学校

・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。」(1校)

<学校名>

佐賀県立佐賀農業高等学校

・「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーグローバルハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される。」(0校)

○中間評価講評

1	宮城県気仙沼高等学校	<p>○テーマごとに主担当の教員を任命するシステムとすることで教員の参加と責任が明白になっており、各教員が事業の運営に積極的・主体的に関わっている点が高く評価できる。</p> <p>○「震災復興」プログラムなど地域の力をうまく活用している例もあり、東日本大震災を経験し、その復興に努力している気仙沼地区の期待を担った一層素晴らしい研究となることが期待される。</p> <p>○学校が独自で設定している評価の観点や通常の教科の指導の在り方が本事業の趣旨に合致していない点が見られるため、中間評価自己評価票に示された評価の観点を参考として、日常的な振り返りを行いながら吟味し、十分な成果をあげるよう改善することを期待したい。</p>
2	栃木県立佐野高等学校	<p>○1学年からグローバル人材育成の課題に対して効果的な学習の積み上げを行ってきている点や、統計の専門家の協力を得ながら事業成果の分析に努めている点は評価できる。</p> <p>○1年生と2年生の学びや指導のつながりを明確にし、検証すること、及び3年生の個人研究（自由研究）について、SGHの学びの総合化・統合化という視点から指導計画を設計することが望まれる。</p> <p>○個別の力の育成状況以外に、例えば「グローバルリーダーのロールモデルが描けたのか」などの総合的な評価を行うことも必要であり、2年間の事業実施により、当初の研究開発の仮説や課題の解決・達成状況がどのような状況にあるのか、総括することが望まれる。</p>
3	埼玉県立浦和第一女子高等学校	<p>○管理職、事務職員を含む推進委員会及び1学年、2学年の教員が担当指導し、学校全体での取り組みとなっている点が評価できる。教科の授業においても探究型への授業改善に励むなど、教員の意欲の強さも高く評価できる。</p> <p>○社会全体として男女共同参画社会がめざされている中で、全生徒を対象にした女性グローバルリーダー育成のための研究開発が進められており、学校の特性を生かしたユニークな研究課題の設定および研究開発が進められている。</p> <p>○生徒や教員の意識の変容等について、その背景にある要因を分析したり、定性的な説明を補足することが必要である。成果を県下の小中高等学校に波及したりするなど、今後の取り組みと成果の普及に期待したい。</p>
4	千葉県立佐倉高等学校	<p>○公立の高等学校として実質的な目標を手堅く達成しており、教員の意欲的な取り組みによって優れたプログラムが開発され、他校へも十分に波及するものと期待できる。本事業における標準的なプログラムとして評価することができる。</p> <p>○アンケート結果の分析はよく整理されており、英語等の指導法の変化が明らかにされている点が評価できる。</p>

		<p>○地域の特性を生かした研究テーマや課題をより鮮明にしながら、特定の教科以外の教科についても適切にプログラムに位置付けていくことが必要である。</p>
5	東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校	<p>○同一法人の強みを生かし、高大連携・高大接続型（SGUとSGH）のシステムやプログラム、指導体制がよく準備されている。とりわけ学長のリーダーシップと指導・支援によって、高度で充実した国際連携型研修や大学での指導などが充実している点は評価できる。</p> <p>○広域から意欲の高い生徒が入学してくる学校の特性を生かした研究開発を着実に進めており、学校の特性に合った指標に即して自己評価され、成果及び課題が多面的にかつ着実に把握されている点も評価できる。</p> <p>○各教科のカリキュラムを生徒たちの探究に関連したものとするために、学習内容の構成の仕方や教科間の関連性、学習活動の工夫の在り方などについて、より明確にしていくことが望まれる。とりわけ専門的能力の育成だけでなく、生徒たちがグローバルかつローカルなテーマでフィールドワークや探究活動を行うことで、本事業の趣旨により合致した取り組みがなされることを期待したい。</p>
6	創価高等学校	<p>○実施体制が適切に構築されており、本プログラムを柱として学校全体の学習内容・学習方法についても積極的に改革がなされつつある。</p> <p>○全生徒の参加の上に中核となる生徒が選抜されており、取組の成果が全校に波及・共有されるように組まれている。今後、選抜される生徒の数を増やし、本取組のメリットが多くの生徒に還元されることを期待したい。</p> <p>○事業評価の方法が生徒・教員へのアンケートや資格所持者数などに収束していたり、1年目と2年目とがそれぞれ単発的な手法によって評価されていたりするため、今後は統計処理の専門家を擁する大学との連携を進め、評価の客観性を担保するなどの工夫や、とりわけ各学年のつながりについて再度見直し、事業評価を行うことが望まれる。</p>
7	高槻高等学校・中学校	<p>○医科大学の系列高等学校として、大学のバックアップを得ながら深い学びが展開されており、特にグローバルヘルスに係る課題研究をはじめとした多様なグローバル人材育成プログラムを実施している点はユニークな取り組みとして評価できる。</p> <p>○構想調書で計画された取り組みが的確かつ効果的に実施され、アンケート調査とルーブリック調査による成果の検証も行われていることは評価できる。</p> <p>○対象となる生徒の少なさゆえに、かかわる教員が少なくなることや全校としての取り組みと位置付けにくいこと、他校への波及に難</p>

		しきがあることが課題としてあげられる。それぞれのコースプログラムや課題研究の関係性の明確化や、地域性を生かした研究開発や、交流・協働など講座型以外の活動の開発が求められる。
8	和歌山県立日高高等学校	<p>○過疎化や若者の地域離れなどのローカルな課題をグローバルな視点で捉えなおし、実体験的に調査させながら改善・解決の方途を考えさせていく取り組みは評価できる。</p> <p>○海外研修等が生徒自身の探究テーマの深まりを促進し、その影響が海外研修に参加していない他の生徒らにも波及したかが明確になるよう、大学等の専門家にデータ提供を行い統計処理をしたり、表現の仕方を教員が学んだりするなど、評価の方法や調査分析、根拠の示し方等について改善が強く望まれる。</p> <p>○現況を研究進捗工程表と照らし合わせ、5年間の進捗管理を再検討されたい。また、HP上も含め、取り組みや活動、成果の発信の充実も望まれる。</p>
9	佐賀県立佐賀農業高等学校	<p>○全国で唯一SGHに指定されている農業高校として、地域社会との連携を基盤にしてグローバル人材の育成に取り組んでいる点は貴重である。今後、海外フィールドワークの充実やカリキュラム・指導法の変革・工夫を図りながら、地域に根ざしたグローバル人材の育成、ひいては日本の農業を牽引していく役割を担うことが期待される。</p> <p>○全体的に、教科分業型のプログラムに比重がかかりすぎており、教員の連携をより密にするよう工夫することが求められる。また、3学科の連携を強化したり、教育委員会の支援を受けたりしながら、SGHの理念を学校全体に広める工夫や農業高校としての特色あるカリキュラムの開発を期待したい。</p> <p>○本事業を推進するのに必要とされる英語力の育成が課題としてあげられる。徐々に向上しているものの、積極性を日常的に訓練する機会として普段の授業で発表や話し合いなどを行い、経験を重ねることが必要であり、その点は改善が必要である。</p>
10	熊本県立水俣高等学校	<p>○地域の特性を生かした本校ならではの課題を掲げて着実に研究開発を進めており、「環境」という視点から世界を学ぶことを通じて、自分で考え行動できるグローバル人材の育成に取り組み、その成果及び課題を明確にしている点は評価できる。</p> <p>○生徒が外に発信する機会や海外研修の機会が増えたことで、グローバルな課題に対する当事者意識やグローバルマインドが喚起され、表現力の向上にもつながっている点が評価できる。</p> <p>○生徒の活動時間の十分な確保に留意するとともに、3つの学校種が融合することの利点・課題も合わせて分析をする必要がある。また、運営指導委員会が有効に機能するよう引き続き工夫することが望まれる。</p>

11	沖縄県立那覇国際高等学校	<p>○多岐にわたる活動が計画的・段階的に構成されており、生徒たちの探究能力の育成と英語能力、コミュニケーション能力の育成とが一体的に遂げられるようなカリキュラムとなっている。また、アンケート調査の結果からも、異文化との共生、異なる価値観の尊重など、生徒の意識の変化について仮説に基づく成果が示されている点が評価できる。</p> <p>○20名からなるSGH委員会にて情報や問題の共有がされており、学校全体の取り組みとして実施されている。また、外部委員の意見を反映した軌道修正も実施されている点が評価できる。</p> <p>○国内外の高校との交流において、現地でのフィールドワーク、発表・交流活動など多様な体験が遂げられるようにさらなる充実に努め、生徒たちが地球規模の課題について一層深く学べるような取り組みとなることが期待される。</p>
----	--------------	--